資料　１

**「大東市架け橋プログラム」の見直しについて**

**１．前回検討会議における主なご意見**

**《項目１》「大東架け橋プログラム（素案）」の構成・内容について**

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 発言内容 |
| Ｂ委員 | ・カリキュラムの内容については、５歳は５歳、１年生は１年生でもう少し具体的にしていかないと、見えにくいところがある  ・保育所由来の施設は、カリキュラムを作成することに慣れていないのではないか |
| Ｇ委員 | ・カリキュラムに使う「言葉」としては、「三つの柱」より「１０の姿」の方が幼保小の互いの理解を進めるためにはいいと思う |
| Ｃ委員 | ・５歳児と１年生の２年間の横のつながりで、どういう連携をするかというのを書けるようにした方が良いのではないか |
| Ｃ委員 | ・文字数が多すぎる。キャッチーな言葉だけをしっかり書いておいて、中身は自由に作れるようにした方がいい  ・**内容が細かすぎて、現場では読んでもらえないのでは**。特に５歳児に関する記載が固い |
| Ｃ委員 | ・**５歳児と１年生が、カリキュラムとして繋がっていることが分かるようにしてほしい**。園で１年過ごした上での小学生と言う連続性がこのカリキュラムでは表現しにくい |
| Ａ委員 | ・総合的な「遊び」から「学び」に向かう力を育てていくのが幼児教育  ・内容が細かいとの意見があったが**、本来は原理原則のようなところを示すもの**と思う  ・架け橋プログラムを受けてこれまでの教育・保育のやり方を変えるというものではなく、これまでどおりでいい |

**《項目２》「カリキュラム」作成後の連携の取り組みについて**

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 発言内容 |
| Ｂ委員 | ・５歳児から小学１年生の育ちの視覚化については、目に見るに勝るものはない。小学校の先生に５歳児の様子を見ていただき、保育士が１年生の様子を見ることが必要  ・小学校に向かう子どもたち全体の姿を見ていただく機会を保育所側で作っていただけたら  ・何らかの形でお互いの姿を見ることができるような連携ができればいいと思う |

**《項目３》「架け橋プログラム」の理解に向けた取り組みの必要性について**

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 発言内容 |
| Ｂ委員 | ・まずは理事長や園長に周知を行い、それを現場の保育士に降ろしていくと進めやすいのでは  ・パブリックコメント的な皆さんのご意見を聞く場を設けた方が良いのでは |
| Ｄ委員 | ・北条地域には「ふれあい協議」という組織があり、公的機関や私立の保育園も参加している。子どもの様子の伝え合いや、関係者との関係、こども園では幼児期はどう過ごしていたかについて伝え合う場として継続している |
| Ｈ委員 | ・四条地域でも同様の取り組みが行われている  ・コロナ禍以前のように参観に行かせていただいたり、運動会を見せていただいたりする他、小学校から先生が来られて子どもたちと交流したり、園での様子を見ていただいたりといった機会が持てればよい |
| Ｅ委員 | ・うちの保育所からは複数の小学校に進学しているが、小学校との交流は持てていない |
| Ｆ委員 | ・連携の取り組みとしては地域教育協議会があり、諸福中・小・幼・PTAと青少年指導委員、自治会区長、民生児童委員、こども会などが加わっているが、私立の就学前施設は入っていない |
| Ｄ委員 | ・協議会があればその場に出向かせてもらって話ができる |
| Ａ委員 | ・架け橋プログラムをカリキュラムとして考えた時に、制度的な部分と内容的な部分は分けて整理する必要がある  ・内容としては、１０の姿は既に各園の計画等に含まれており、あえてカリキュラムを変える必要はない  ・各地域で取り組みがバラバラなところを制度として整えていくところが、方向性として必要ではないか |
| Ｂ委員 | ・小学校１年生のお子さんのいる保護者が、安心して子どもといられる状況の整備についても、プログラムに加味してもらった方がやりやすいのでは |
| Ｇ委員 | ・架け橋プログラムを手掛かりとして、どのような活用ができるのかを考えてみた  ・教育委員会は２年目の先生の法定研修で、保育園所で研修をしていたが、最近はコロナ禍でできていなかった  ・去年と一昨年は諸福幼稚園の実践を聞かせていただき、今年は第２聖心保育園で実際に保育の様子を見て、お話も伺わせていただく予定  ・架け橋プログラムによって、子どもたちを育てておられる園の意図がわかるのではないかと考えている。  ・架け橋プログラムに教科名を具体的に書いたらどうかというお話もいただいて、確かにそうだなと思った。例えば、「生活する力」の後ろのところに、主たる教科としては生活や特活や道徳と書けばイメージを持ちやすくなるのではないか |
| Ｄ委員 | ・園では、地域教育協議会で公開保育を実施しており、毎年計画しているが、小学校からは参加者が１人の状況 |
| Ｇ委員 | ・１人が参加することにより、伝達講習で他の教員に伝えるなどして、情報共有できると考えている。 |
| Ｆ委員 | ・幼稚園では、１３時～１３時５０分ぐらいの時間帯に公開をしており、学校からは支援コーディネーターの先生が来てくれていることが多い |
| Ｂ委員 | ・以前に、低学年の先生と連携したいとのリクエストを出させてもらったが、結局配慮のいる子どもたちの担任の先生ばかりになってしまった  ・できれば現場の先生に、１人でもまず来ていただくという形が取れれば |
| Ｄ委員 | ・昨年、小学校に授業参観に行かせていただいた際、小学校の授業の内容を知ることができた |

**《項目４》交流の取り組みについて**

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 発言内容 |
| Ｂ委員 | ・北条こども園で公開保育をした際、民間保育園から参加したのは自分１人だった。別の施設との連携ができていないのでは  ・架け橋プログラムが、近隣との連携を取るきっかけとなり、子どもたちを育むための取り組みとなればいい |
| Ｃ委員 | ・私の園だと、小学校とは距離が離れており、隣の中学校と連携している  ・私立幼稚園はカリキュラムが多岐に渡っており、園による違いが大きい。そこにどう架け橋を作っていくのかが課題  ・制度理解に向けた理事長、園長を対象とした研修会は、市主催で考えて欲しい  ・幼保と小学校と現場の先生同士の意見交換も必要  ・小中学校では夏休みに中学校区ごとに研修会を開催しているが、そこに幼保が入っていけるようになれば、地域ごとにしっかり情報交換できるのでは |
| Ｇ委員 | ・まずは知っていただくということが大切  ・時間はかかるが、２年目研修において理解を深めていただくことがよい  ・以前は府の研修で社会体験研修があったがなくなってしまった。以前のように２日連続で研修に行くことは難しく、他に何か方法がないか模索している状況 |
| Ｃ委員 | ・連携の取り組みの上下に例えば、５歳児の１年の育ちとか狙いみたいなのを書けるようにして、小１の４月から３月があって、その真ん中に連携の取り組みが書けるようにするのがいいかもしれない。 |

**２．「大東市架け橋カリキュラム」見直しの方向性**

　・「言葉」としては「１０の姿」を使って表現した方がよい

・内容をより分かりやすいものに改めるべき。構成は縦より横のほうがいい

　・５歳児と１年生が、カリキュラムとして繋がっていることが分かりやすくする

　・「教科」を盛り込むことにより、「１０の姿」との繋がりをイメージしてはどうか

　・園によるカリキュラムの違いをどう盛り込むのかが課題

・「縦表記」から「横表記」への変更

・「１０の姿」における５歳児、１年生の目指すべき姿を、より簡潔に、伝わりやすい内容に整理

・幼保の年間行事、小学校の「生活科」の単元に沿った、１年間の流れと、「１０の姿」及び「教科」の関連性を整理

**３．連携の取り組みについて**

　・北条地区の「ふれあい協議会」、西部地域における「地域教育協議会」のような幼保小連携の取り組みは検討できないか

　・小学校の先生が５歳児の様子を、保育士が小学校１年生の様子を、「実際に見る」ことの重要性

　・公開保育・研究授業等への参加

　　　・令和６年度は第２聖心保育園・北条こども園の公開保育に学校教諭が参加

　　　・小学校側の研究授業や参観への参加の促し

　　　・２年目研修の活用によって理解を深める